樹々の葉を透かして
きらめく光はさまざまに
みんな個性のまちづくり

夢、感動、
ときめきのまちへ
あなたとともに･･･

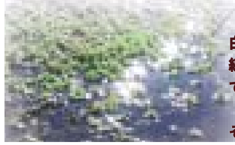
(財)練馬区都市整備公社

ねりま
まちづくりのひろば
こもれび

第5号
平成15(2003)年4月
隔月1日発行

発行（財）練馬区都市整備公社
練馬区豊玉北6 - 12 - 1
Tel 3993 - 8011(代)
FAX 3993 - 8070
http://www.zai-ntk.or.jp/

特集
源流からたどる白子川



白子川は、区の西北部を流れ、まちにゆとりと潤いをもたらしています。源流は、練馬区立大泉井頭公園。白子川の周りにはいくつもの湧水があり、それが水源となっています。湧水があるのは、自然が豊かな証拠。練馬区にある農地や樹林地、公園などに降った雨が、地下へ浸透して地下水となり、地表や河川に湧き出してきて湧水となり、やがて白子川の流れになっていくのです。

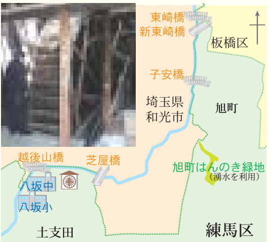
かつては汚れていた白子川も、自然によって浄化されたきれいな水が流れるようになりました。川や湧水、それを生み出す緑。私たちが大切にしていきたい自然が、白子川の周りにはあふれています。

知っていますか？白子川のこんなこと

越後山橋下流の県境には…

白子川は、練馬区内を過ぎると、練馬区と埼玉県和光市の県境を通り、その後和光市と板橋区の間を行き来しながら新河岸川に合流します。

県境に白子川の水を利用した水車があります。本流から水を回し、堀を設けて敷地内に引き、製粉用に使っていました。「山八水車」と呼ばれたこの水車は約30年前まで現役だったそうです。


▶現存する「山八水車」（山八商事　土支田4 - 45 - 10）
東崎橋
新東崎橋
板橋区
子安橋
埼玉県
和光市
旭町
越後山橋
芝屋橋
八坂中
八坂小
旭町はんのき緑地
（湧水を利用）
土支田
練馬区

東京の名湧水57選に選ばれました

～清水山憩いの森～

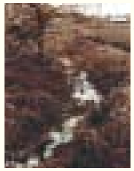
東京都が、「湧水への関心を高め、その保護と回復を図るため、水量、水質、その由来、景観などに優れた湧水等」を選定した東京の名湧水57選。その一つに清水山憩いの森が選ばれました。景観の美しさ、湧出口から白子川までが自然のままであることや、水に触れられることなどが評価されています。花の咲く春ばかりでなく、涼を求めて夏に出かけるのもよいですね。

白子川の歴史をひもとく

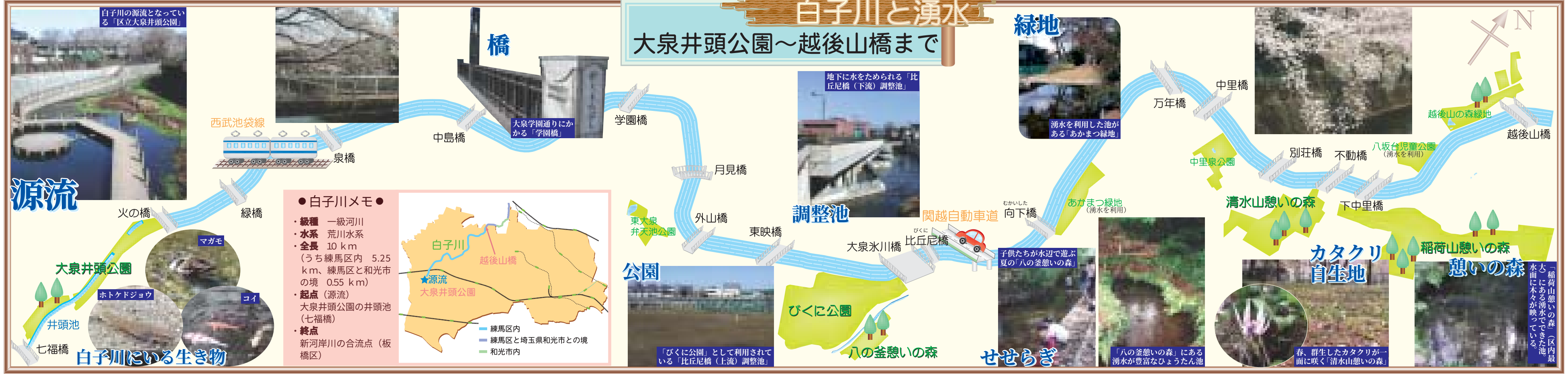
白子村（現在の和光市白子町）を流れることから白子川と呼ばれるようになりましたが、「白子」の名は朝鮮半島にあった国、「新羅」から来ていると言われています。

江戸や明治の頃は、村によって「白子川」「矢川」「新倉川」「土支田川」「小井戸川」「境川」などと呼ばれていました。また、当時は今の西東京市からも水が流れており、そちらが源流だったという説もあります。

かつては、農業用水として使われ、粉をひく水車もあり、農業には欠かせないものでしたが、昭和50年代には、生活排水で汚れ、水質汚濁で知られるようになってしまいました。現在、下水道が整備され、生活排水もなくなり、魚や鳥のいるきれいな川になりました。


昭和30年頃の源流（大泉井頭公園付近）
（写真提供：練馬区）

練馬区内の白子川と湧水
大泉井頭公園～越後山橋まで


白子川の源流となっている「区立大泉井頭公園」
源流
橋
大泉学園通りにかかる「学園橋」
西武池袋線
泉橋
中島橋
学園橋
月見橋
緑橋
火の橋
マガモ
大泉井頭公園
ホトケドジョウ
コイ
井頭池
七福橋
白子川にいる生き物
白子川
越後山橋
★源流
大泉井頭公園
練馬区内
練馬区と埼玉県和光市との境
和光市内
東大泉
弁天池公園
外山橋
東映橋
公園
「びくに公園」として利用されている「比丘尼橋（上流）調整池」
地下に水をためられる「比丘尼橋（下流）調整池」
調整池
大泉氷川橋
比丘尼橋
関越自動車道
向下橋
びくに公園
八の釜憩いの森
子供たちが水辺で遊ぶ夏の「八の釜憩いの森」
せせらぎ
「八の釜憩いの森」にある湧水が豊富なひょうたん池
緑地
湧水を利用した池がある「あかまつ緑地」
あかまつ緑地
（湧水を利用）
万年橋
中里橋
中里泉公園
別荘橋
不動橋
下中里橋
八坂台児童公園
（湧水を利用）
清水山憩いの森
カタクリ自生地
春、群生したカタクリが一面に咲く「清水山憩いの森」
越後山の森緑地
越後山橋
稲荷山憩いの森
「稲荷山憩いの森」（区内最大）にある湧水でできた池。水面に木々が映っている。
N

●白子川メモ●
- **級種**　一級河川
- **水系**　荒川水系
- **全長**　10 km（うち練馬区内　5.25 km、練馬区と和光市の境　0.55 km）
- **起点**（源流）大泉井頭公園の井頭池（七福橋）
- **終点**　新河岸川の合流点（板橋区）

守り育てていく白子川流域の自然

白子川流域で水や緑を守る活動をしているグループの皆さんに、お話を伺いました。

白子川流域で活動しているグループ

	主な活動場所	代表者	主な活動日	連絡先
白子川源流・水辺の会	練馬区立大泉井頭公園	本田　純	第4日曜	3924 － 9181
八の釜憩いの森を守り育てる会	八の釜憩いの森	川村　享	第1土曜・第3日曜	3998 - 8545
大泉みどり会	清水山憩いの森	牛山　久男	第1・第3火曜	3867 - 5965
ホトケドジョウの会　ふれあい広場	練馬区立大泉井頭公園	川村　美代子	第2土曜	5387 - 2723

主な活動内容　人と人が助け合うことを第一に考えながら、「都市型ミニ雑木林ふれあい広場」の植物の育成、手入れ、たい肥作りなどの活動をしています。

源流の水と生き物を守る
白子川源流・水辺の会

白子川源流・水辺の会には、「川を大事に！をキーワードに人のつながりをつくる」ことを目的として、子どもからお年寄りまで約70名の会員が集まっています。また、小学校の総合学習の授業や、高校の部活動、大学の研究室と、会員以外の大勢の方々とつながりがあるそうです。

主な活動は、白子川源流のある大泉井頭公園で、川の清掃や、市販のパックテストを使った水質調査、網ですくってどんな生き物がいるか調べる生物調査、ほかの植物の繁殖を妨げる水草オオフサモ刈りなど。そして、年に1回「白子川源流まつり」を、同じ大泉井頭公園で活動する「ホトケドジョウの会　ふれあい広場」や地域の学校と共に開催しています。

「湧き水が源流となっている川が我々の住む地域にあるのですから、どんな水が湧いてどんな生き物がいるのか、市民の力で調べてみんなに知ってもらいたい。また、川に住む生き物の環境をよくし、川をめぐる文化を見直したいと思っています」と会長の本田さん。

和気あいあいと地域に根ざして活動しているようです。

玄関などに飾れるオリジナル「白子川プレート」を手にする会長の本田純さん▼

▲オオフサモを刈る会員の皆さん

▶源流まつりで発表する小学生

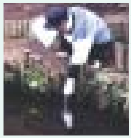
心に残る自然を考える
八の釜憩いの森を守り育てる会

「八の釜憩いの森」は、名前のとおり、釜（水の湧く所）がいくつもあり、水がふつふつと湧き出る様子が見られます。車の通りの激しい外環大泉インターの入り口のそばですが、驚くほど自然豊か。湧水の豊富なひょうたん池には、きれいな湧水だけに生息するという藻の一種、カワモズクがいます。練馬区でも、カワモズクがいるのはめずらしいとのこと。また、せせらぎでは、夏場、水に入って遊ぶ子どもたちの姿をよく見かけます。

この「八の釜憩いの森」で活動をしているのは八の釜憩いの森を守り育てる会のみなさん。練馬区のエコアドバイザー5名を含む12名の方が、自然観察や清掃美化、カワモズクを守り育てるための活動をしています。ほかにも、蛍の飛び交うせせらぎづくり、湿地帯の復元や学校の環境学習との連携など、様々な試みを熱心に行っています。

会長の川村さんは「以前のような、いろんな生物のいる森に戻し、子どもたちにこういう自然豊かなところがあったという思い出を残してあげたい。」と話していました。

会長の川村享さん（持っているのは、自作の「八の釜憩いの森」の模型）▼


▲水温を調べている様子

▶湧水の流量を調べる会員の方
カワモズク▶

清水山の自然を守り育てる
大泉みどり会

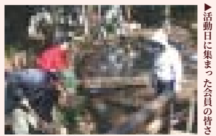
カタクリの群生で知られる「清水山憩いの森」の自然を守っているのは、大泉みどり会のみなさん。練馬区の緑化協力員であった20名の方が、森や、湧水の池、小川を清掃し、巣箱をつくり、カタクリや野鳥を守っています。それらを観察して記録するのも活動の一つです。

カタクリの花が咲くのは、3月下旬から4月上旬のちょうど今頃。花が咲くのに7年もかかるカタクリが、毎年きちんと花を咲かせるのは、会のみなさんの苦労の賜物。森をきれいにし、人が群生地に入らないようにし、またよく咲く方法をいろいろと試しているそうです。

「川べりにセキショウを移植したり、巻きついてほかの木を枯らすクズの木を根っこから抜いたりと、年間を通じて休む間なく活動しています。残念なのは、ゴミを捨てる心ない人がいることですね。」と会長の牛山さんはおっしゃいます。

住宅街に残るこの貴重な自然を守る会のみなさん。私たちもマナーを守りながら、楽しみたいですね。

◀会長の牛山久男さん


▲湧水のでる「鳥楽の池」清掃中の様子

▶活動日に集まった会員の皆さん

R100 古紙配合率100％再生紙を使用しています 白色度は81.5％です